

第3回懇話会 構成員意見と対応方針

項目	ページ	委員名	構成員意見	回答・対応方針
【資料1】				
ダム運用 (フラッシュ放流)	1-1		■ R6年7月のフラッシュ放流前に、25m3/s程度の自然出水が2回あるが、直後の20m3/sのフラッシュ放流は実施したのか。	■ フラッシュ放流量によって前何日かに出水があった場合は中止する計画となっているがそれには当たらないため、実施した。 7月3日は最大30m3/sのフラッシュ放流を予定していた。実施条件は、「実施予定日の前30日以内に同規模以上の出水があった場合は、実施しない。」としており、その要件には当てはまらなかった。(前30日間の最大放流量約14m3/s)
【資料2】				
底生動物	2-18		■ 流水性の底生動物は以前の種属性に戻っており良い傾向が見られる。 ■ 止水性の底生動物では、等が見られるようになっており改善傾向である。	—
付着藻類	2-23		■ 各年の優占種の表は、地点の並びを統一すること。また、ダム上流の車作大橋で糸状緑藻類(<i>Cloniophora sp.</i>)が優占しているため、データを確認すると3サンプルのうちの1つで多く確認され優占種となっているため、サンプリングの際には注意し、資料にその旨を記載するとよい。	■ ダム上流で採取した3サンプルのうち1サンプルで <i>Cloniophora sp.</i> が極端に多く確認され、優占種1位となったことを確認した。その旨資料2-23へ追記する。 ■ 今後の調査のサンプリングの際は糸状緑藻類に注意する。
トンボ	2-35		■ と同定されている種はである。大阪府にはは分布していない。	■ 同定時の写真をにご確認いただき と同定した。資料2-35を修正する。
	2-35		■ と同定されている写真を確認したところ、と思われる。	(同上)
一カエル類	2-38		■ ウシガエルが継続して確認されている。今年度はオタマジャクシも確認されていることから何らかの対策が必要と思われる。	■ 調査中に確認された場合は可能な限り駆除する。
	2-48		■ 今年度はも見られなかった。今後も生息は厳しいと思われるため、調査を継続するか検討するのが良い。	■ モニタリング期間中は調査を継続し、調査結果を踏まえ今後の調査の必要性を検討する。
左岸道路法面対策モニタリング	2-65		■ センダンは先駆性樹種でなく外来種である。生育していることはプラスの要素としては捉えられない。	■ センダンは国内外来であることを確認した。資料2-65を修正する。
猛禽類 —全般	2-66~		■ 昨年と同様、繁殖地が事業地から少し離れており今年も繁殖の結果は順調であったと思われる。引き続きモニタリングを続けてほしい。	■ モニタリング期間中は調査を継続する。
猛禽類 —	2-72		■ の巣箱の対策については、よりもの対策を重視するのが良い。	■ 今後、カメラ調査等によりが確認された場合は対策を検討する。
			■ の巣箱をステンレス板への改良したことにより、へも影響が出る可能性がある。繁殖後の調査結果から影響の有無を確認してほしい。	■ 次年度の調査結果を確認し影響の有無について評価する。

回答・対応方針の黒字は当日回答、赤字は懇話会後に対応方針を追記。

項目	ページ	委員名	構成員意見	回答・対応方針
	2-77		■ フラッシュ放流で 30m ³ /s 放流ができないとのことで、桑原橋の中洲ではこれまで冠水していたエリアが水没しなくなり植生が拡大していくことが想定される。中洲全体が冠水しないことで植生がどれくらい拡大し、結果としての繁殖地が縮小するかどうか定量的に評価してほしい。	■ 次年度も UAV 調査を実施し、今年度の結果と合わせて植生の拡大状況を評価する。
水質	2-83～		■ 徐々に水質が悪化していく可能性があるため毎年傾向を確認してほしい。項目別に見るのではなく、すべての項目を関連付けて確認すること。	■ ご意見いただいた点に注視しながら、引き続き来年度以降もダム運用を進めていく。 ■ 次年度以降、ご指摘の点に留意して評価を行う。
水質	2-83～		■ 水質は環境基準を下回ってはいけない。	■ ダム湖内は河川の環境基準の設定ではなく参考として確認している。
水質	2-92		■ 植物プランクトンの表を貼り直すこと。	■ 資料 2-92 を修正する。
水質	2-94～99		■ 水質の調査結果の評価及び今後の対応方針について、評価結果としては「大きな悪化は見られない」といった定性的な表現ではなく、「環境基準を満たしている」等の事実を記載するのが良い。	■ 定性的な評価について削除することとし、資料 2-94～99 を修正する。
その他	－		■ 本資料は学術的に大切な資料となるため、アーカイブは長期的に保管してほしい。	■ 経年的な取り組みを行っているため、長期的に保管できるよう調整する。 ■ 調査分析評価結果を報告書形式で取りまとめ、アーカイブ化し公開する。
【資料 3】				
フラッシュ放流 －魚類	3-31～34		■ フラッシュ放流や置き土によって、下流の付着藻類を剥離して流下させることのほか、ダムにより頻度が低下した自然出水を補うための河床の攪乱させることも大切である。フラッシュ放流や置き土によって魚類の産卵生息場所等の生育環境を創出できているかの観点で評価することが大切である。具体的に魚が利用している様子を確認する等、一般の方が理解しやすい方法で整理すること。	■ 魚類の生育に適した環境となっているかどうかは、シノ法や土壤硬度計により砂礫河床の状態を把握している。 ■ 次年度の付着藻類調査の際に、魚類や貝等の喰み跡による利用状況を合わせて確認する。 ■ 次年度の魚類調査の際に魚類（等）の産卵場所や産卵行動を補足的に確認する。
			■ 魚類の利用している様子の確認は、石の喰み跡を確認するのが良い。	（同上）
フラッシュ放流 －砂礫河原の維持更新	3-10、38		■ 20m ³ /s のフラッシュ放流では砂礫河原は一部しか冠水しておらず、評価として砂礫河原の維持更新に一定の寄与をしているとは言えない。このままでは砂礫河原は維持できずはいなくなるだろう。次年度はフラッシュ放流の流量は 25m ³ /s での砂礫河原の冠水状況を確認してほしい。そのうえで自然出水時の様子を把握する等して、砂礫河原がすべて冠水するための流量とそれがどれくらいの頻度であれば砂礫河原を維持できるかを確認すること。	■ 次年度は可能な限り 25m ³ /s 程度のフラッシュ放流を実施し、UAV 調査から冠水状況を把握する。 ■ 桑原橋下流砂礫河原については一部で効果が見られていないため、資料 3-38 にただし書きを追加する。 ■ 河川管理における河道掘削の際に、砂礫河原がフラッシュ放流により冠水可能な高さとなるような掘削深を検討する等連携して実施する。 ■ 自然出水後の冠水状況を把握する。
【資料 4】				
（特になし）				

回答・対応方針の黒字は当日回答、赤字は懇話会後に対応方針を追記。

項目	ページ	委員名	構成員意見	回答・対応方針
【資料5】				
全体計画 ー貯水池環境（魚類、底生生物）	5-10	■■■■■	■ R8 年度以降、植物の群落組成は長期的な調査が計画されているが、貯水池環境の魚類や底生動物については実施を予定していない。バックウォーターでは水域が形成されるので、これらについても数年ごとに調査を実施したほうが良いのでは無いか。 ■ 上記の意見に同意である。	■ ご意見を踏まえ、次年度に R8 年度以降の貯水池の調査計画を検討する。
全体計画 ー魚類調査全般	5-10	■■■■■	■ 魚類調査の計画を立てる際に、最近いろいろなダムで外来魚が増えていることに留意してほしい。周辺の河川や水路等から流れ込んでいる可能性が考えられるので、その確認のため、例えば 5 年後に調査する等を検討すると良い。	■ 令和 7 年度のモニタリング結果を確認して今後の継続の有無を決めていく予定である。 ■ 上記と同様の対応とする。
全体計画 ーフラッシュ放流調査	5-10	■■■■■	■ 砂礫河原の維持・更新の効果検証にあたっては、計画流量（最大 30m³/s）から減らさなければいけない状況であり、その場合の効果検証は今後実施することとなっている。そのため、現時点で R8 年以降の計画から外すのではなく、今後の結果を確認して検討する方針が良い。	■ すべての項目について、来年の調査結果も確認しながら長期的なモニタリング計画を策定する予定である。ご意見・ご指摘を踏まえて来年度に向けて引き続き検討していく。 ■ 次年度に R8 年度以降の調査計画の再検討を行う。
全体計画 ーその他	ー	■■■■■	■ 造成した■■■■■や■■■■■の巣箱は、せっかく維持されてきたものなので管理を継続できる形を作ってほしい。	■ 方針については来年度に検討する。 ■ ■■■■■や■■■■■の巣箱を環境学習として利活用可能か事例を収集し、地域の市民団体等と協力して維持・継続できるよう検討する。

回答・対応方針の黒字は当日回答、赤字は懇話会後に対応方針を追記。